福音新聞
THE GOSPEL NEWS

在日大韓基督教会
宣教110～120周年
標　語
共に生きるいのちの
天幕を広げよう

1963年9月20日　第3種郵便物許可（毎月一日発行）
2018年10月1日（月）第777号
発行所　福音新聞社（1部100円）
〒169-0051東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3202-5398 info@kccj.jp
発行人／金鐘賢・編集人／金柄鎬
印刷所　青丘文化社

在日大韓基督教会宣教110周年記念大会開催

標語：「共に生きるいのちの天幕を広げよう」

2018年８月12日（主）～13日（月）にかけて、在日本韓国YMCA（東京）において、在日大韓基督教会宣教110周年記念大会が開催された。宣教110周年を迎えた在日大韓基督教会は、標語「共に生きるいのちの天幕を広げよう」をかかげながら、次の10年をどのように展望するのかを共有するために全国から200名を超える信徒・教役者が集まった。大会は、第一部：記念礼拝、第二部：記念式典、第三部：午餐会で構成され、大会後に併せて合同修養会を開催した。

大会には、カナダ、アメリカをはじめ、宣教協約を結んでいる韓国、日本の友人たち、「自らの苦難の経験をもとに、北東アジアの癒やしと和解が在日大韓基督教会の使命であり、和解をなす信仰共同体として、成熟されることを望む」、「朝鮮半島の平和と和解の実現をはじめ東アジア・世界のエキュメニカル運動の一翼を担って来られたみなさんに愛の挨拶を送る」、「時代が変わり文化が変わっても、主の恵みと愛は変わらない。与えられた使命を共に果たそう」などの温かい祝いのメッセージが数多く寄せられた。

第一部の副総会長の金健牧師の司会で開会した記念礼拝では、信仰告白、呉永錫副総会長の代表祈祷ののち、全国教会女性連合会会長の李炫知会長が聖書（マタイによる福音書16：13～19）を朗読し、総会長の金鐘賢牧師が、「主が建てていく教会」という題で説教をした。その後、教会学校代表の金明鐘さん、青年会全国協議会の呉眞雅代表委員、全国教会女性連合会の金英子副会長が祈祷を併せ、礼拝を終了した。

第二部は、総会傘下の在日韓国人問題研究所（RAIK）所長である佐藤信行さんへの感謝牌の贈呈式が行われた。佐藤さんは、韓国の民主化運動と日本のキリスト者をつなぐ結び目の活動をはじめ、長きにわたって日本国内のマイノリティの人権を擁護し、さまざまな市民運動をつなげる役割を果たしてきた。2011年以降は、とくに福島で被災した移住女性たちを支える活動を積極的に展開してきた。在日大韓基督教会が宣教課題に常々盛り込んできた「マイノリティ性」を、佐藤さん／RAIKは具体的な活動を通して示してきた。参加者一同、その大きな働きに惜しみない拍手を送った。

アメリカ、韓国、そして日本の教団の来賓の方々の温かい挨拶を受け、第三部の午餐会に入った。ざっくばらんな会話の中に、地方会や教団・教派、国の境を越えて、これまで平和と和解のために働かれた様々な方々の活動の痕跡が想起され、多くの活動の上に現在の立脚点があることを改めて感じ合う交流の場となった。

第1部記念礼拝

金鐘賢総会長

主題講演 金性済牧師

特別講演 秋山徹牧師

夕礼拝説教 権五倫牧師

感謝牌を送られる佐藤信行さん

110周年記念合同修養会開催

午後、女性会、男性会、教役者に分かれ研修

2018年８月12日（主日）～15日（水）にかけて、記念大会に合わせて合同修養会が開催された。12日（主日）の夕方の開会礼拝から始まり、13日の最初に、直前総会長の金性済牧師（NCCJ総幹事）による主題講演がおこなわれた。主題とともに掲げられた「多様な肢を含む教会」、「幼く若いいのちと共に成長する教会」「福音と公正な秩序に立つ教会」「和解と共生をめざす教会」という４つの副題について、御自分の個人史を照らし合わせながら力強く説かれ、これから教会が歩むべき道と考えるべき事柄のあり方を示された。

昼食をはさんで、午後には日本基督教団の陣内大蔵牧師による「音楽とお話」の時間をもった。牧師でありながらプロのミュージシャンとして活躍する陣内牧師の音楽には福音の響きが埋め込まれていて、ご自身の信仰生活についてのユーモアあふれるお話と相まって、参加者を魅了した。

続いて日本基督教団総幹事の秋山徹牧師による「エスニック教会による宣教の使命」というテーマの特別講演がおこなわれた。丹念に調べられた文献によりながら、御自分の経験とも照らしあわせ、日本における在日大韓基督教会と日本の教会とが、この地でともに歩むことの意味、とりわけ国家主義と対峙することの切迫した現代的意味を説かれた。

第３日目は、日本聖公会の卓志雄司祭を招待して、「カルト宗教」に対する講演をお願いした。御自分のお父上が「カルト」の暴行によって殺害された経験を持つ卓司祭は、「信仰」という表面的な殻を活用しながら行われる具体的な暴力が、個人的な次元を越えた国家の権力とむすびつく形で行われる構造によって、暴力が正当化され、暴力として見えにくくなることの怖さを訴えた。

引き続き、韓国からお招きした韓国人気歌手の尹亨柱長老による「讃美と証し」の時間をもった。民主化運動のなかで、絶大的な人気を博した尹長老の歌声は、ただの美しさではなく、大きな苦悩をくぐりぬけた人間の経験の幅と深さに裏打ちされたものであった。そしてその「証し」は、わたしたちの「いま」がどのような「きのう」によって成り立っているのかを静かに考えさせるものであった。

午後は、女性会のリードによって実現した「信徒フォーラム」が行われた。まず、在日大韓基督教会の歴史を寸劇によってたどった。手作りの台本をもとに、地方会の垣根を越えて全国の参加者が、歌、踊り、そして素人芸ながら多くの笑いと頷きを引き起こした演技により、豊かな場をつくりあげた。

祈祷会説教 朴成均牧師

祈祷会説教 崔和植牧師

閉会礼拝説教 張慶泰牧師

陣内大蔵牧師

卓志雄司祭

尹亨柱長老

金大東牧師

在日大韓基督教会の歴史をたどった寸劇

その後、女性会、長老会、牧師の立場から短いパネルディスカッションをおこなった。「財政、人材など、総会がかかえる大きな課題がたしかにある」、「歴史をふりかえりながら、いま、ここのわたしたちのアイデンティティを再度確認しなければならない」、「いま起きていることも確実にいずれ歴史の１ページになることを考えつつ、みんなの力で苦難を乗り越えてきたことを次世代に伝えていきたい」、「『マイノリティである』だけでなく『マイノリティとともに歩む』総会であろう」などの意見を共有した。

その後、女性会（丁讃宇バイオリンコンサートと柳町功長老の講演＝別記事参照）、男性会の集い、教役者（韓国九美教会の金大東牧師の牧会カウンセリング講演）に別れて開催された。

２回に渡っての夕礼拝には恵みの御ことばを聞く礼拝として、韓国基督教長老会バルム教会の権五倫牧師をお迎えし、教会において信仰生活に力を与える説教をされた。

最終日は、修養会を振り返る全体討議に時間を設けた。「いのち」そのものがないがしろにされるこの時代に、わたしたちはどのような信仰をもつべきか、主題講演の内容を吟味しきれなかった修養会の反省点を踏まえつつ、慶恵重、楊炯春名誉牧師をはじめ、さまざまな方々から、多様性を確認しつつ「みんなの力をあわせて」前に進もうという意見を共有し、閉会した。

全国女性会主催の研修会開く

バイオリニストの丁讃宇氏招き演奏会

在日大韓基督教会宣教110周年記念大会および合同修養会三日目に、全国教会女性連合会主催の研修会を行った。お盆中だったため、どれくらい参加するか不安もあったが、120名の方々が参加され、とても感謝であった。

丁讃宇氏バイオリン演奏会

研修会１部はバイオリニストの丁讃宇さんを招いて演奏会を開いた。丁讃宇さんが準備された主題は「イエス様の生涯」であった。「われをも救いし」から演奏が始まり、約１時間の演奏であったがピアノとバイオリンの美しい旋律に感動し、あっという間に時間は過ぎていった。演奏する前に簡単に曲の紹介をしてくださって、よりその曲の素晴らしさを感じることができた。そしてアンコールに応えて「臨津江イムジンガン」を最後に演奏してくださった。

慶応義塾大教授の柳町功長老

研修会２部は慶應義塾大学の教授である柳町功長老（横浜教会）による、「クリスチャンと経済～柳韓洋行創業者・柳一韓から学ぶ」という主題を掲げた講演が行われた。柳一韓さんの生涯、そして経営哲学など詳しく、そして分かりやすくお話してくださった。「不義に妥協することが不義である。」クリスチャンとしてどのような経済感を持つべきか、また持たなければいけないのかを学ぶ機会となった。

（報告：石橋真理恵）

関西地方会

オリニデイ・キャンプ行う

生駒山麓で9教会オリニ33名が集まり

去る、７月16日（水）、『出エジプトを体験しよう！～神の宝の民～』というテーマのもと、関西地方会教育部主催の第１回オリニデイキャンプが生駒山麓ふれあいセンターで開催された。９つの教会（子供33名、大人30名）が参加した。

開会礼拝において清水のぞみ師母が紙芝居を通して出エジプトのあらましを説明した。場所を移動して、許伯基牧師の指導のもと、種なしパンを作り、苦菜の代用としてエゴマの葉を用いて出エジプト前の過越しを疑似体験した。

昼食は、吉井秀夫長老の祈祷後、猛暑の中、男性教役者たちや教会学校の教師たちが汗を流しながら焼いてくれた焼肉を頂いた。

その後、子供達が出エジプトを疑似体験するためのユニークなプログラムを用意してアスレチックを楽しんだ。また、幼稚科の子供達には、別途プログラムとして、海の生き物を石鹸で作ることにした。

最後のまとめの時間では、作品の発表や出エジプトを疑似体験した感想を子供達が述べた。その後、子供用の十戒を交読文形式で読み上げ、朴栄子教育部長の閉会祈祷をもってすべてのプログラムを終えた。

今年は、日帰りということもあって、例年よりも多くの子供たちが参加した。今後、第２回、３回と続けられることを願う。

最後に、このキャンプのために祈りと支援、また、惜しまずご協力してくれたすべての兄弟姉妹に心から感謝を申し上げる。

（教育部書記：朴時永）

関西地方会

青年連合会讃美集会開催

「青年たちよ! 讃美せよ!」主題に73名集う

2018年７月８日青年主日を迎え、関西地方会青年部主催で大阪第一教会に於いて青年連合会特別讃美集会が開催された。

１部礼拝時間には在日大韓基督教会青年主日祈祷文を交読して礼拝を捧げ、２部の特別讃美の時間にはフルート演奏者ソン・ソルナムさんをゲストとして招請し、フルート演奏と証しを聞きながら神の恵みを分かち合った。

その後には、各教会の青年たちによる多様なジャンルの讃美が歌われた。「青年たちよ！ 讃美せよ！」という主題で集った今回の集会には、青年と壮年を含めて73名が参席した。

今後とも讃美を通して青年集会がもっと活性化されることを祈る。

（報告：青年部長 宋南鉉牧師）

福音新聞９月号休刊の報告とお詫び

福音新聞９月号は西日本集中豪雨や台風被害の対応などで発刊できませんでした。お詫びしてご報告致します。

全国教会祈祷カレンダー

＊宣教委員会は今年、毎主日に全国の各教会のために祈りをささげる祈祷カレンダーを製作しました。共に祈りで結ばれましょう。祈った後は、その旨を伝えましょう。

在日大韓基督教会宣教委員会

10月に全国教会が祈祷する教会

・７日：神戸東部教会(韓承哲牧師)、姫路教会(韓澤柱牧師)
・14日：姫路薬水教会、明石教会（李聖雨牧師）
・21日：水島教会、岡山教会（金承熙牧師）
・28日：新居浜グレース教会(安辰男牧師)、
　　広島教会(中江洋一牧師)

青年会全協

第69回夏期修養会開催

主題「イエスに倣って」のもと、30名が参加

2018年８月13日～16日、山梨県河口湖にて、第69回夏期修養会が開催された。開会礼拝は、名古屋教会の新井由貴牧師が執り行って下さった。プログラム内容として、今回の主題である、～「イエスに倣って」というのであれば～ というテーマに沿って、講師の松谷信司氏（キリスト新聞社社長、日本キリスト教会浦和教会長老）の講演を聞いた。

また、３日目は障碍者によりそう活動を続けて来られた平田義牧師を招いてパリロ礼拝を行なった。講演、礼拝、代表委員の発題から感じたことなどをグループに分かれて話し合いスタンツ発表を行なった。無言劇による深い表現、「いかになりたかったたこ」など、アイデンティティの多様性だけでなく、重層性、変容性などについても、深い考察をしていた。何かを告発することを目指すのではなくて、神さまを通した出会いのなかで、自分が変えられる中に、自分の思い込みの「世界」を超えた＜世界＞があることに気づきあうことの大切さを共有した。

参加者は30人程で、少人数ながらも、一人一人と丁寧に向き合うことができ、温かな交わりの時を持つことができた。閉会礼拝は信徒委員長の金迅野牧師が担当して下さった。 毎回、夏修に参加すると得るものがあるが、今回は弱くされている立場の人たちに、クリスチャンとして、どのような行動をとることができるかということを深く考えさせられた。キリストの愛を感じながら、自分のできる一歩を踏み出していきたい。

（報告者：文野直美）

特別手記

RAIK所長の退任にあたって

佐　藤　信　行

今から44年前の1974年２月、在日大韓基督教会の附属機関として「在日韓国人問題研究所（Research-Action Institute for the Koreans in Japan 約称:RAIK）」が設立された。ちょうど在日コリアン二世と日本人が全国各地で民族差別撤廃のたたかいに立ち上がった揺籃期であった。

1988年４月、RAIK発足からその重責を担ってきた裵重度さん（川崎教会長老）が、新設される川崎市ふれあい館の館長に赴任することになり、私がRAIKに着任。

まず私が着手したことは、『RAIK通信』の創刊である。それは、前職の『季刊三千里』編集部で得た、日本社会は在日コリアン一人一人の苦闘を「歴史」に留めなければならないという日本人としての確信からであった。

次にやったことは、前年に発足した「外登法問題と取り組む全国キリスト教連絡協議会（外キ協）」の事務局。次いで1990年８月、全国キリスト教学校人権教育セミナーが始まり、その運営委員会に参加。

1992年２月、RAIKの活動に対して東京弁護士会から人権賞が授賞される。それは、RAIKに対してというより、1970年代～80年代の「在日コリアンの人権獲得の闘い」に対して、でもあっただろう。

1997年、全国各地で移住者の人権問題に取り組む市民団体・教会関係団体・労組が結集して「移住者労働者と連帯する全国ネットワーク（移住連）」が結成され、そこに参画。

2005年12月、在日コリアン・移住者の人権裁判を担っている弁護士たちの呼びかけで、「外国人人権法連絡会」が結成され、その共同事務局をRAIKが担う。この連絡会が中心になって2016年、日本に初めての人種差別撤廃法「ヘイトスピーチ解消法」が実現した。

2006年１月、国連特別報告者が人権理事会に提出した「人種差別に関する日本報告書」を活かすべく、反差別国際運動や部落解放同盟、アイヌ協会、移住連など人権NGOと共に「人種差別撤廃NGOネットワーク」を結成。

2012年７月、東日本大震災の外国人被災者を支援すべく、YWCA関係者らと「福島移住女性支援ネットワーク」を結成。

――というように、創立44年のうちこの30年間のRAIKの歩みを振り返ってみると、何と多くの課題に取り組んできたのか、と思わざるをえない。そこでの私の仕事とは、それぞれの課題を俯瞰するような大論文をまとめることなどはできず、ほぼ毎月の会議レジュメと報告文をひたすらまとめることであり、資料集やニュースの編集、チラシ・パンフレットの作成、声明の起草、セミナーや集会の企画と準備……である。いわば「事務屋」「編集屋」に徹した30年間であったが、RAIKはその貴重な「資料庫」となった。

2015年11月、KCCJが日本と海外の諸教会に呼びかけて第３回マイノリティ国際会議が東京で開かれた。そして2017年４月には、国際会議の果実の一つとして、日本と海外の諸教会が参加して「マイノリティ宣教センター」が誕生し、RAIK事務室を共用してセンターの活動が始まった。

今年６月、私は満70歳となり、KCCJの規定によりRAIK所長の職から解放された。そしてRAIKの活動はマイノリティ宣教センターに事業の一部として引き継いでもらう――という私の勝手な目論見は、しかし早々に頓挫せざるをえなかった。というのは、私がRAIKの仕事の活動領域を、あまりにも「手を拡げすぎて」収拾がつかないからである。

あと１年か２年、あるいは３年、私の体力が続く限り、「手を拡げすぎて」しまった仕事の一つ一つを、次の世代にバトンタッチしていきたい、と願っている。

というわけで、『RAIK通信』を継続すると共に、今後はボランティアとして週３日はRAIKの仕事、あと３日は福島での活動を続けることにした。

台風21号 関西被害報告

去る９月４日に上陸した台風21号によって関西地方会の15教会が大小の被害を受けました。現在まで、多くの教会が修理されず応急処置だけを施した状態で礼拝をささげています。

その中でも、浪速教会（金鐘賢牧師）、大阪教会（鄭然元牧師）、大阪第一教会（宋南鉉牧師）、和歌山第一教会（朴成均牧師）、京都南部教会（許伯基牧師）は教会堂の屋根や壁がはがれて飛ばされたり、窓ガラスが割れるなどの被害を受け雨漏りがしている状態です。

全国教会の信徒の皆さん、被害にあわれた教会を覚え、主の慰めがあるように共にお祈り下さい。

浪速教会

大阪教会

大阪第一教会

京都南部教会